



7月 園だより

社会福祉法人雲柱社
五日市保育園

日差しが少しずつ強まり、本格的な夏の訪れを感じる季節になりました。子どもたちは汗をかきながらも元気いっぱい遊び、虫や草花を探したり、プラタナスの木陰や水遊びで涼をとったりしながら楽しく過ごしています。これから夏本番に向けて、しっかりと休息も取りながら、今月も神さまのお守りの中で、子どもたちと共に豊かな時間を重ねていきたいと思います。

子どもの自立について ～手伝うのってだめなこと？～



新年度が始まって3か月が経ち、子どもたちは身支度や片付け、新しい遊びへの挑戦など、「自分でやってみよう」とする姿も多く見られるようになっていきます。そんな姿を見ていると「自立」という言葉を思い浮かべます。自立とは「何でも一人で出来るようになること」だけではありません。「困った時には助けを求められること」も大切な自立の一つだと考えています。この時期の子どもたちは、出来ないことには挑戦したい、でも出来ることはちょっとやりたくない…という姿を見せることもあります。いつもは靴を自分ではけるのに「やって～」と言ったり…。そんな時、つい「自分でできるでしょ」と返したくなりますが、よく考えたら私たちも、本当は出来るけど「今日はいいか」と、ちょっと手を抜きたい時があったりしますね。

大人は、時に「手伝いすぎると自立の妨げになるのでは」と考えてしまうことがあります。しかし、子どもたちは十分に甘え、受け止めてもらった経験があるからこそ「やってみよう」と前向きに挑戦することが出来ます。安心して頼れる大人がいることで外の世界を探索し、自立へ向かうことが出来ると考えられています。つまり、子どもの自立は「一人で出来るように手を離すこと」だけで育まれるものではありません。困った時に助けてもらい、十分に受け止めてもらう経験があるからこそ安心して「自分でやってみよう」と一歩を踏み出していきます。手伝ってもらうことは、自立の妨げではなく、自立へ向かうための大切な土台なのだと感じています。そして、誰かに支えてもらった経験が、今度は誰かを支える優しさへと繋がっていきます。

また、子どもたちにとって「助けて」「手伝って」と言えることが大切であるように、私たち大人にとっても、誰かを頼ることは大切なことです。決して弱さではありません。子育ては喜びにあふれる一方で、悩んだり、疲れたり、「これでいいのかな」と迷ったりすることもあります。そんな時は一人で抱え込まず、ご家族や友人、私たちにもどうぞ声をかけてください。神さまは私たちを一人で生きる存在としてではなく、互いに支え合いながら歩む存在として創ってくださいました。子どもたちが安心して「手伝って」と言えるように、大人もまた安心して「助けて」と言える関係を大切にしていきたいと思います。その姿がきっと、子どもたちの良いモデルになることと思います。



ひんやりとした土の感触を感じながら
裸足で遊ぶのが心地よい時期になりました。